

インマヌエル中目黒キリスト教会
聖日礼拝2007.8.19

メッセージ

ローマ書連講43

『信仰の弱い人を受け入れる』

ローマ人への手紙14章 1～12節

竿代照夫牧師

聖書朗読

新約聖書

ローマ人への手紙14章1～12節

- 1 あなたがたは信仰の弱い人を受け入れなさい。その意見をさばいてはいけません。
- 2 何でも食べてよいと信じている人もいますが、弱い人は野菜よりほかには食べません。
- 3 食べる人は食べない人を侮ってはいけなし、食べない人も食べる人をさばいてはいけません。神がその人を受け入れてくださったからです。

4 あなたはいつたいたれなので、他人のしもべをさばくのですか。しもべが立つのも倒れるのも、その主人の心次第です。このしもべは立つのです。なぜなら、主には、彼を立たせることができるからです。

5 ある日を、他の日に比べて、大事だと考える人もいますが、どの日も同じだと考える人もいます。それぞれ自分の心の中で確信を持ちなさい。

- 6 日を守る人は、主のために守っています。
食べる人は、主のために食べています。
なぜなら、神に感謝しているからです。
食べない人も、主のために食べないので
あって、神に感謝しているのです。
- 7 私たちの中でだれひとりとして、自分の
ために生きている者はなく、また自分の
ために死ぬ者もありません。
- 8 もし生きるなら、主のために生き、もし
死ぬなら、主のために死ぬのです。です
から、生きるにしても、死ぬにしても、
私たちは主のものです。

- 9 キリストは、死んだ人にとっても、生きて
いる人にとっても、その主となるため
に、死んで、また生きられたのです。
- 10 それなのに、なぜ、あなたは自分の兄弟
をさばくのですか。また、自分の兄弟を
侮るのですか。私たちはみな、神のさば
きの座に立つようになるのです。
- 11 次のように書かれているからです。「主
は言われる。わたしは生きている。すべ
てのひざは、わたしの前にひざまずき、
すべての舌は、神をほめたたえる。」

12 こういうわけですから、私たちは、おの
おの自分のことを神の御前に申し開きす
ることになります。

ローマ書連講43

メッセージ

ローマ書連講43

『信仰の弱い人を受入れる』

ローマ人への手紙14章 1～12節

竿代照夫牧師

主テキスト：

「あなたがたは信仰の弱い人を受け入れなさい。その意見をさばいてはいけません。」
(ローマ14:1)

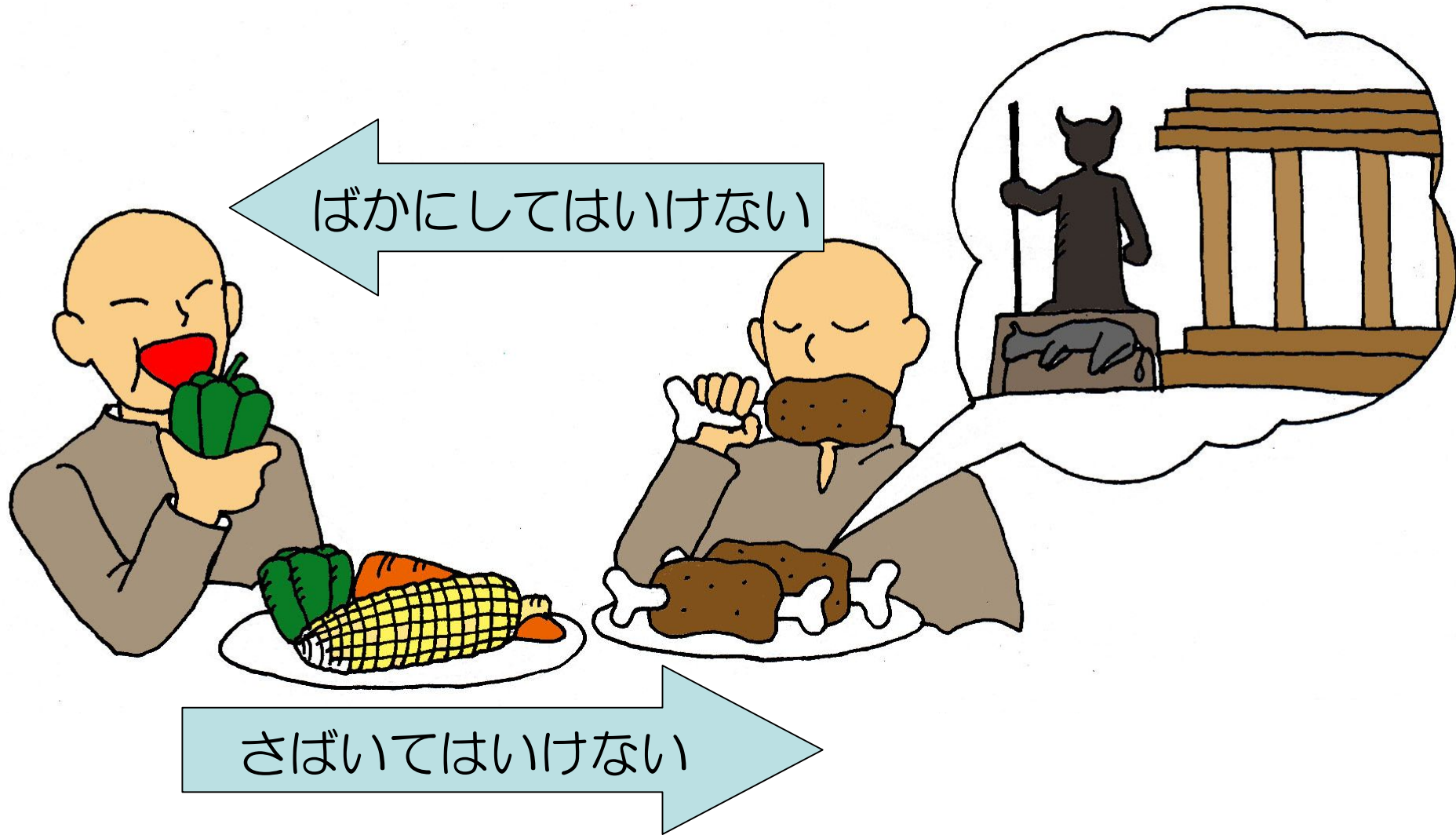
A. 考えの違いを受け入れる（1-4節）

1. 信仰の弱い人とは？

- ・ 良心的な人（良心が過敏すぎて自分で自分を責めてしまいやすい人）
- ・ 特に「生贄に捧げられた動物の肉」を忌避する人（1コリント8章、使徒15:20参照）

2. 信仰の強い人とは？

- ・ 福音の自由に生きる人（ガラテヤ5:1）
- ・ 特に、食べ物タブーを持たない人（1コリント8：4-6、ローマ14:14、1テモテ4:3-5）



ばかにしてはいけない

さばいてはいけない

A. 考えの違いを受け入れる（1-4節）

3. 互いの違いを尊重する

- ・（本質以外の問題で）意見の違いを受け入れ合う大切さ
 - ・ 食べる人が食べない人を侮るべきでない
 - ・ 食べない人は食べる人を裁いてはいけない
- 寛容（Agree to disagree）の原則の大切さ

A. 考えの違いを受け入れる（1-4節）

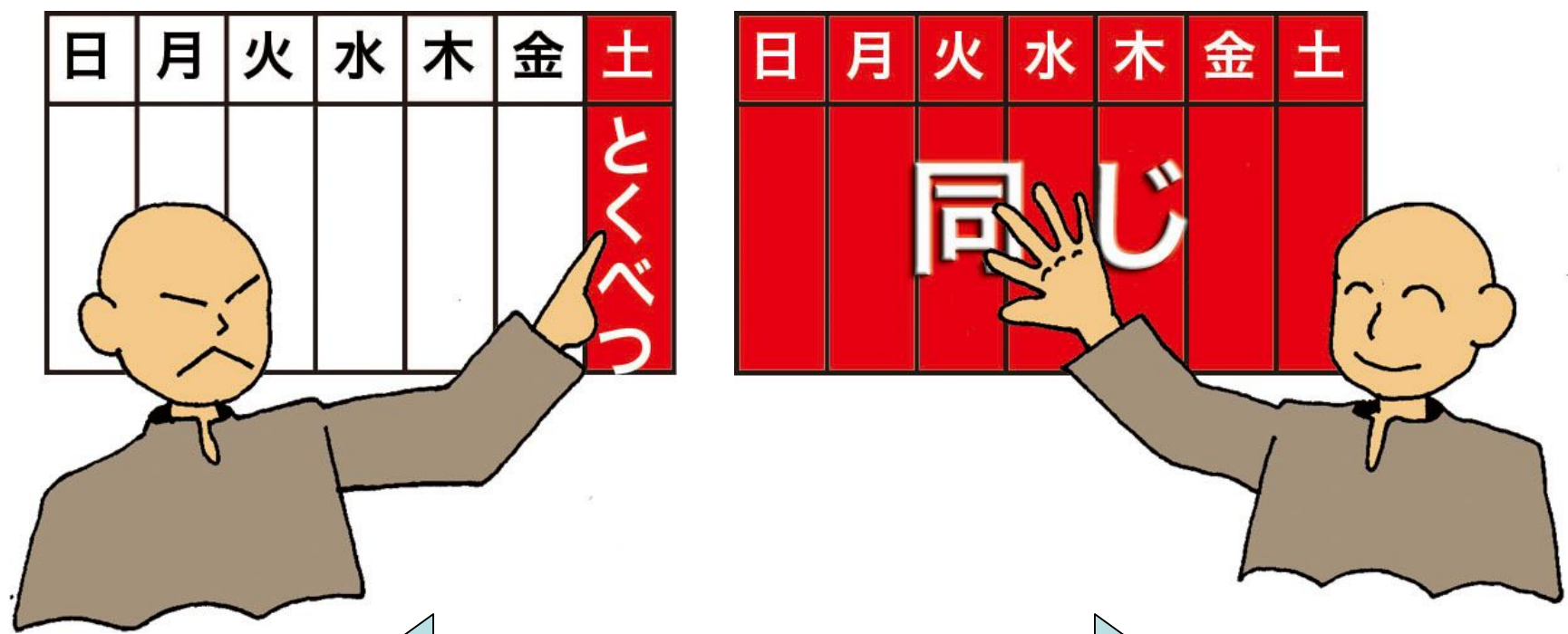
4. 何故尊重するのか

- ①神がその人を受け入れてくださったから
- ②彼が神の僕（家僕）だから
- ③神は可能性を見ておられるから

B. すべては主のため（5-9節）

1. 「食べ物以外の決まり」についても、寛容の原則は適用される日（特に、安息日）の問題で、
 - ・ある人は「特定の日」を大切と考える
 - ・他の人はすべての日は同じと考える（コロサイ2:14-16）

しかし、各自の確信を尊重すればよい
今日的には、酒、タバコ、付き合いなどの課題も同様



互いに尊重しよう

B. すべては主のため（5-9節）

2. 生きるのも死ぬのも主のため
3. キリストは生きるものと死んだもの
の主であられる

C. 他人を裁く恐ろしさ（10-12節）

1. 私達はみな、神の裁きの座に立つ
（マタイ7：2、イザヤ45：23）
2. その裁きの座で申し開きをするの
は自分のことである

終わりに：

私達は「主のために生きている」ことを
確認しよう

- ・ 主が愛してくださっている兄弟姉妹を
受けいれ、愛そう
- ・ 裁きではなく、寛容のスピリットが
支配するように